

薬剤師の生活習慣病領域(高血圧症・糖尿病・骨粗鬆症)の 専門に関する認識調査報告

—各医学学会専門薬剤師制度をふまえて—

宮原富士子¹⁾²⁾

1)(株)ジェンダーメディカルリサーチ

2)NPO法人疾病管理・地域連携支援センター

【背景】

医薬分業率が60%を超えた本邦において、特に高血圧症、糖尿病、骨粗鬆症などの生活習慣病領域での保険薬局薬剤師による服薬指導の質の確保は急務の課題である。

疾病管理や多職種連携医療の観点からも、薬剤師の専門性が問われている。

降圧目標達成
率は40%

骨折は増加の
一途/骨折の連
鎖が止まらない

2型糖尿病悪化に
よる透析の増加

各種学会での動向

日本骨粗鬆症学会(OLS＝骨粗鬆症リエゾンサービス)

骨粗鬆症マネージャーの育成(第1回研修9月29日開催)

日本高血圧学会(コメディカル委員会⇒チーム医療のセッションへ)

コメディカルの呼称をメディカルスタッフに変更案

高血圧療養指導士認定に関する検討

日本女性医学学会

日本女性医学学会認定薬剤師

日本肥満学会

日本肥満学会認定生活習慣病改善指導士

日本プライマリ・ケア連合学会

プライマリ・ケア認定薬剤師

- ⇒ 様々な学会において、医師以外の保健医療職種に与えられたチャンスに薬剤師の参画率は決して高いものではない。
チーム医療を念頭においた薬剤師の育成には、各種医学学会における薬剤師の存在感の向上は、火急かつ重要な課題である。

【目的】

保険薬局等外来での調剤・服薬指導が大きく関与すると考えられる「高血圧症」「糖尿病」「骨粗鬆症」に関して実態を知ることを目的として、インターネットを通じた調査により、薬剤師の認識を調査したので報告をする。

【内容】

インターネット登録パネルを活用したオンライン調査（職業より薬剤師を抽出）により属性を含め25問からなる質問票を作成し、アンケートを実施した。

設問構成は所属学会、医学系学会の専門薬剤師制度導入時の取得希望の有無、研修手法、骨粗鬆症、高血圧症、糖尿病に関する基本知識（患者数など）、ガイドラインの周知度や活用度を関連する用語の知識含むものである。

薬剤師の生活習慣病領域 (高血圧症・糖尿病・骨粗鬆症等) の 専門に関する認識度アンケート

2012年5月実施

実施したアンケートの概要

調査方法： インターネット登録モニターを活用したオンラインサーベイ

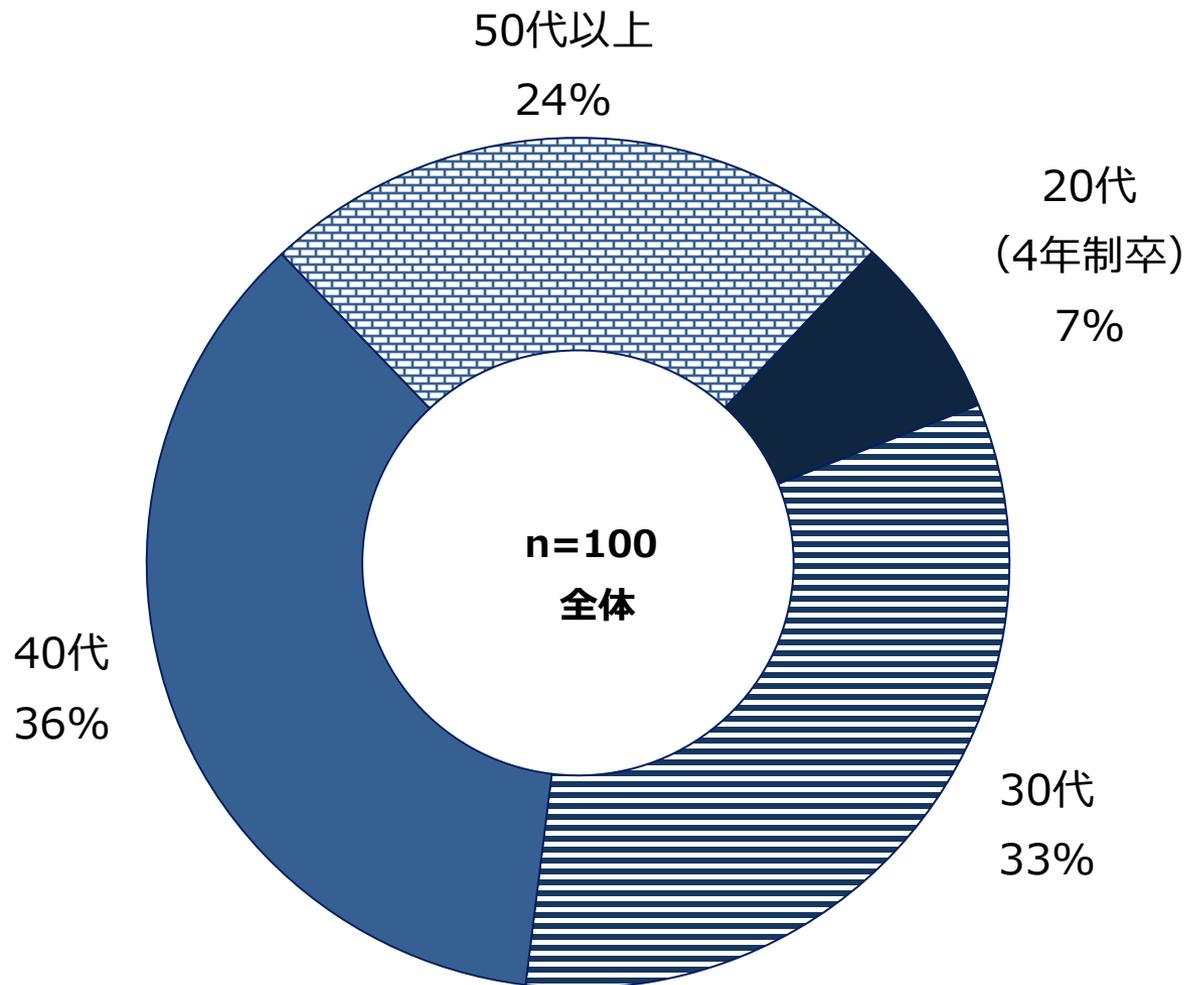
使用したパネル：(株)アイブリッジe+パネル 登録者約160万人

調査対象者： 薬剤師(職業を薬剤師として登録している人)

回収数： 100名

調査期間： 2012年5月25日～5月28日

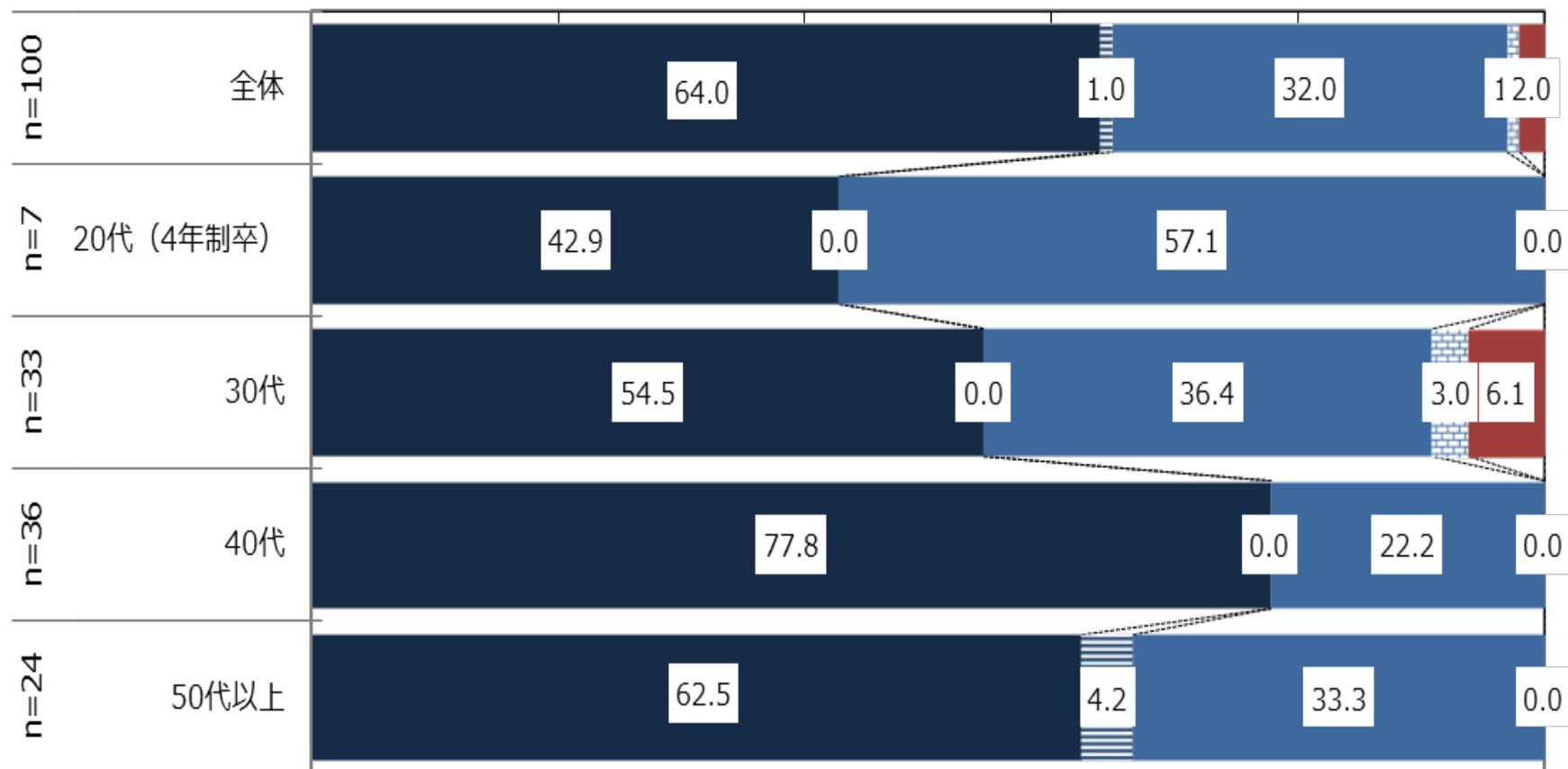
アンケート協力者100名の年代分布



Q. あなたの勤務先（複数ある場合は、主な先1つ）

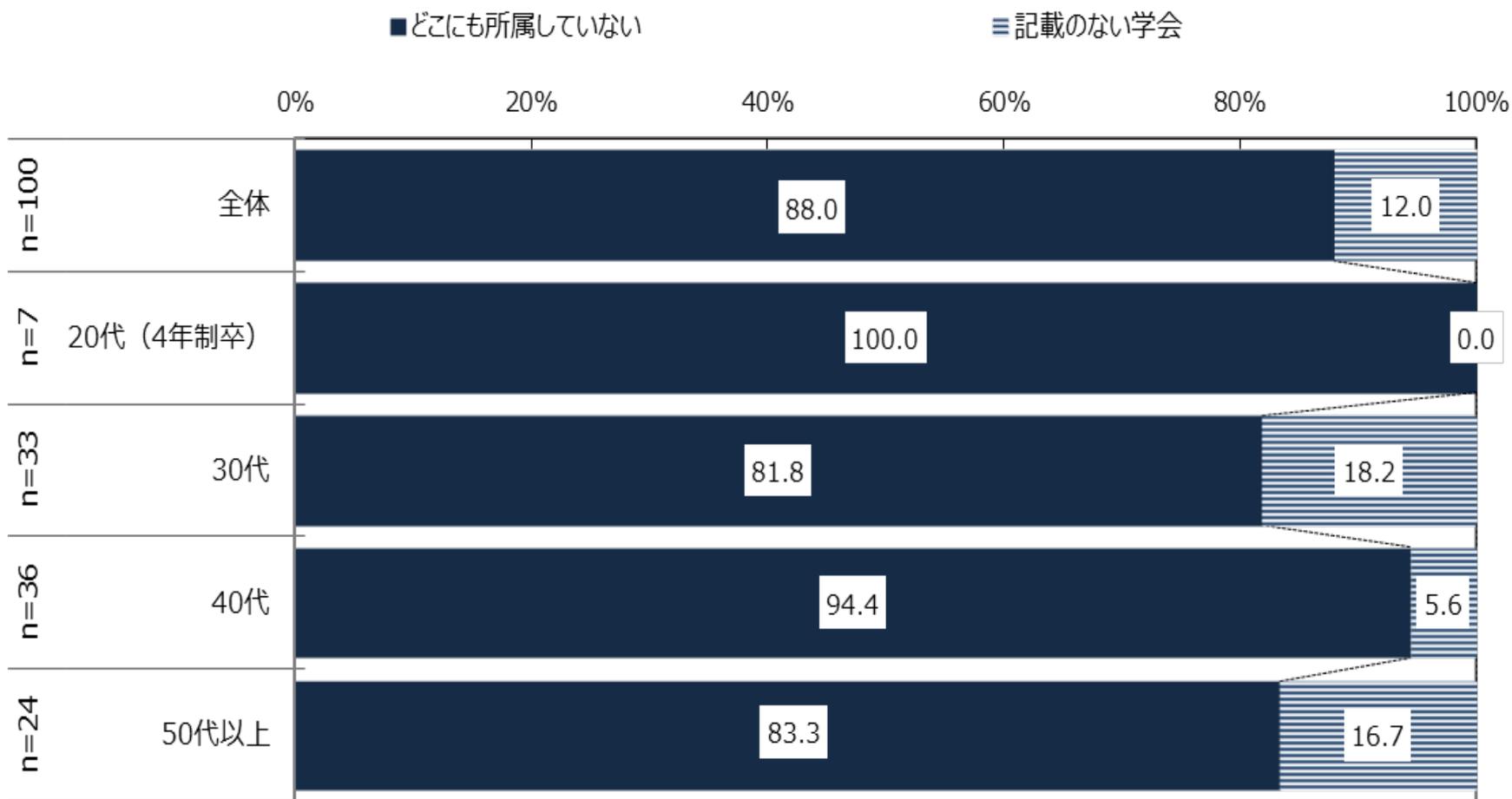
■ 保険薬局（処方箋調剤が主） ≡ 保険薬局（処方箋調剤+OTC） ■ 病院 □ ドラッグストア（処方箋調剤あり） ■ その他

0% 20% 40% 60% 80% 100%



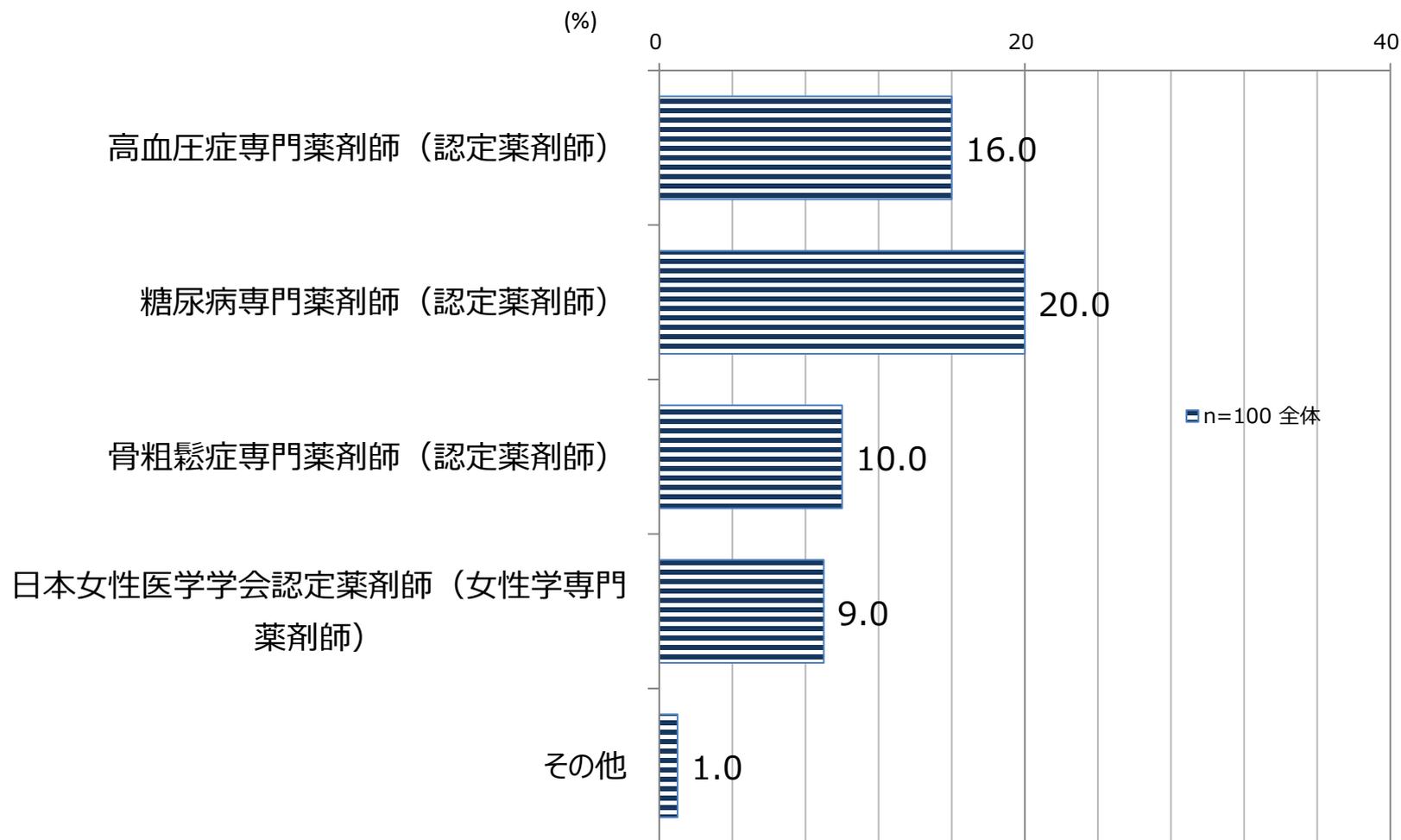
－ 医学系の学会への参加状況についてお伺いします－

Q. 下記の中で、現在所属している学会があれば教えてください



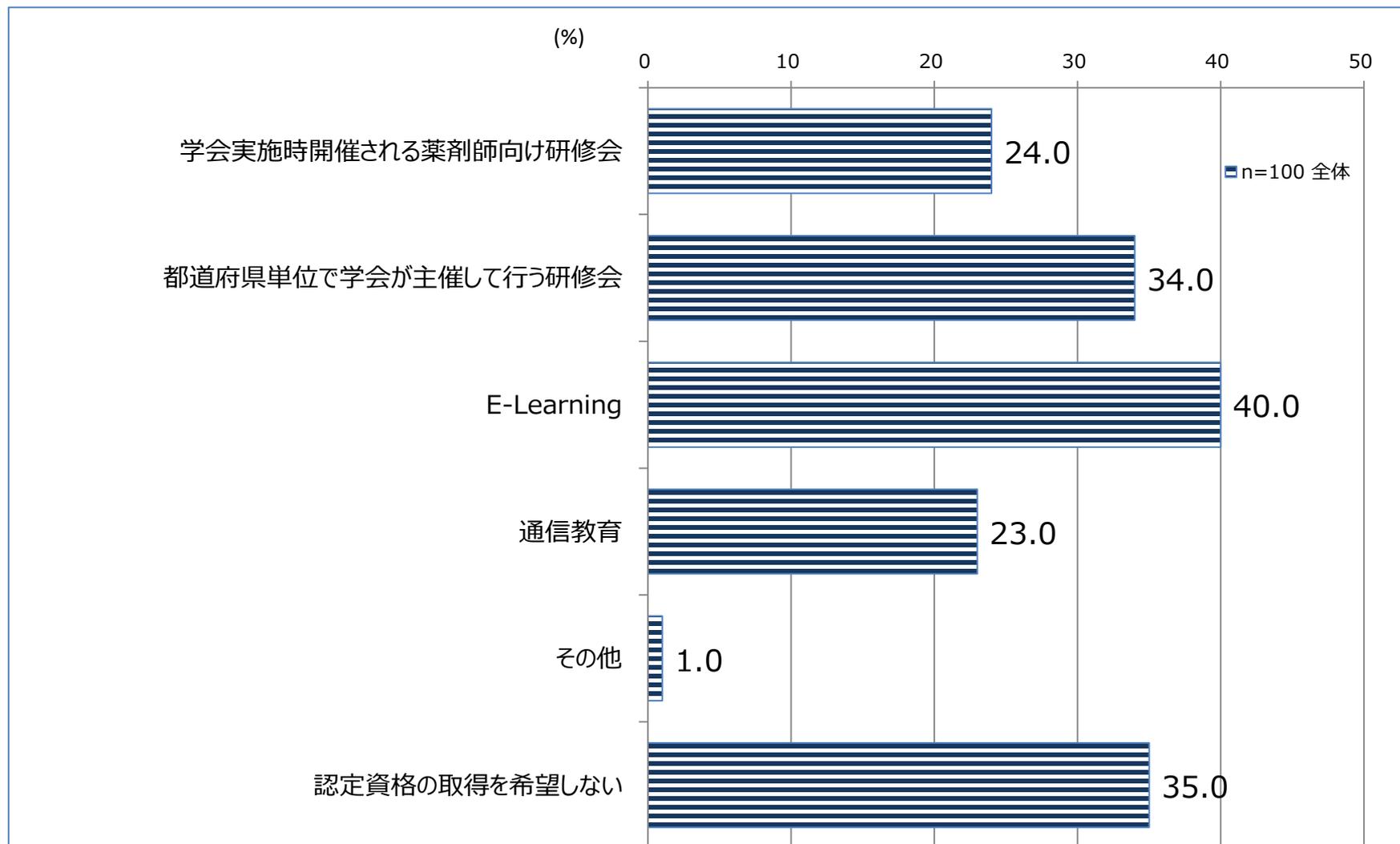
－ 医学系の学会が 認定する専門薬剤師 についてお伺いします－

Q. 医学系学会が、専門薬剤師（認定薬剤師）等の制度を導入した場合
取得したい資格がありますか？ <複数回答可>



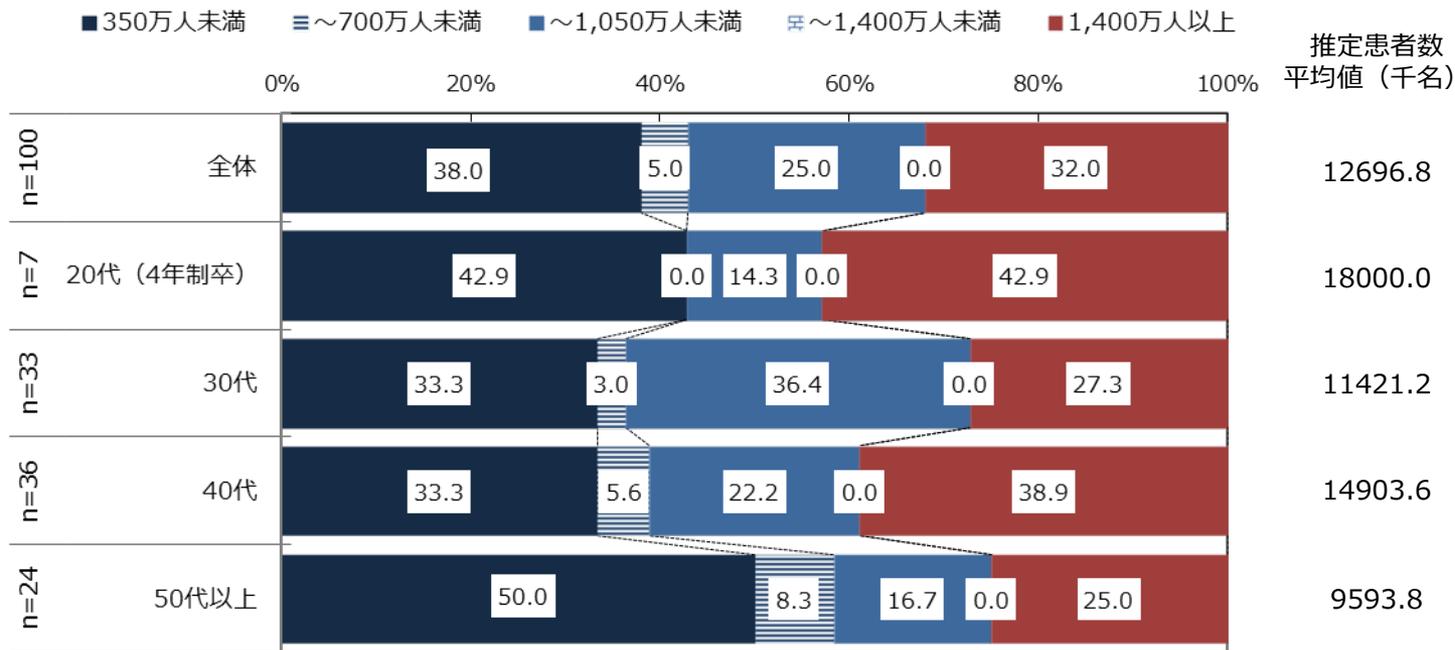
Q. 認定取得の研修があった場合、下記の中より実施されれば受けたいものをお教え
願います。

<複数回答可>



— 高血圧症・糖尿病・骨粗鬆症等の日本における現在の患者数（潜在患者数含む） —
 Q. それぞれの患者数は何名だと思いますか。およそで結構ですので入力願います。

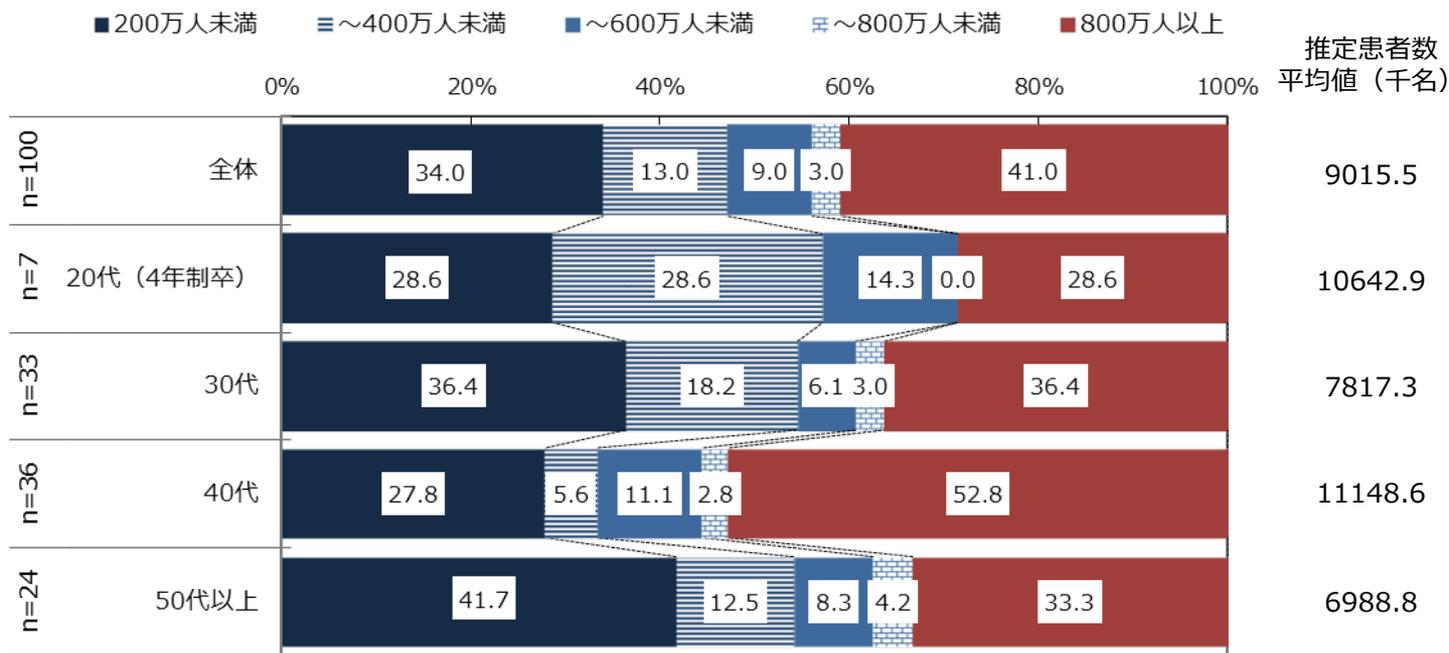
1. 高血圧症患者数



高血圧推定患者数 4000万人⇒正解率3割

－ 高血圧症・糖尿病・骨粗鬆症等の日本における現在の患者数（潜在患者数含む） －
 Q. それぞれの患者数は何名だと思いますか。およそで結構ですので入力願います。

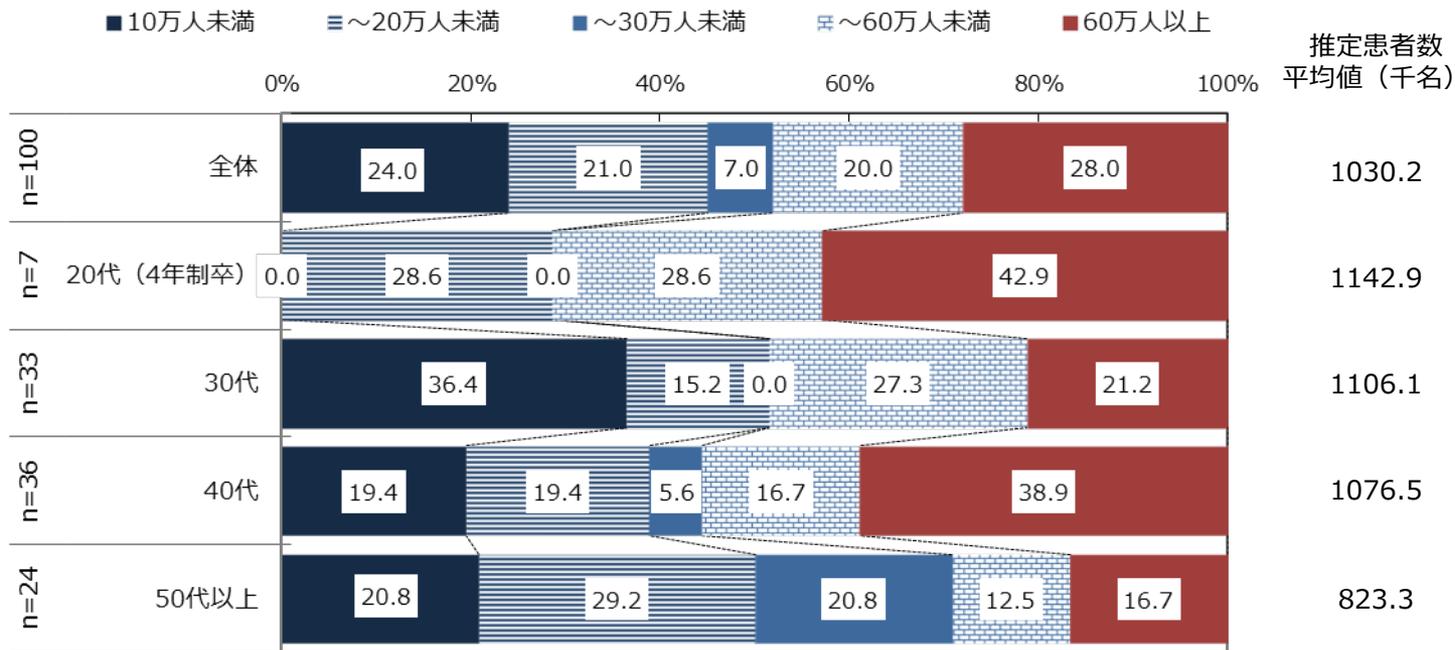
2. 糖尿病患者数



「糖尿病が強く疑われる人」の890万人と「糖尿病の可能性を否定できない人」の1,320万人を合わせると、全国に2,210万人いると推定 ⇒ 正解率4割

— 高血圧症・糖尿病・骨粗鬆症等の日本における現在の患者数（潜在患者数含む） —
 Q. それぞれの患者数は何名だと思いますか。およそで結構ですので入力願います。

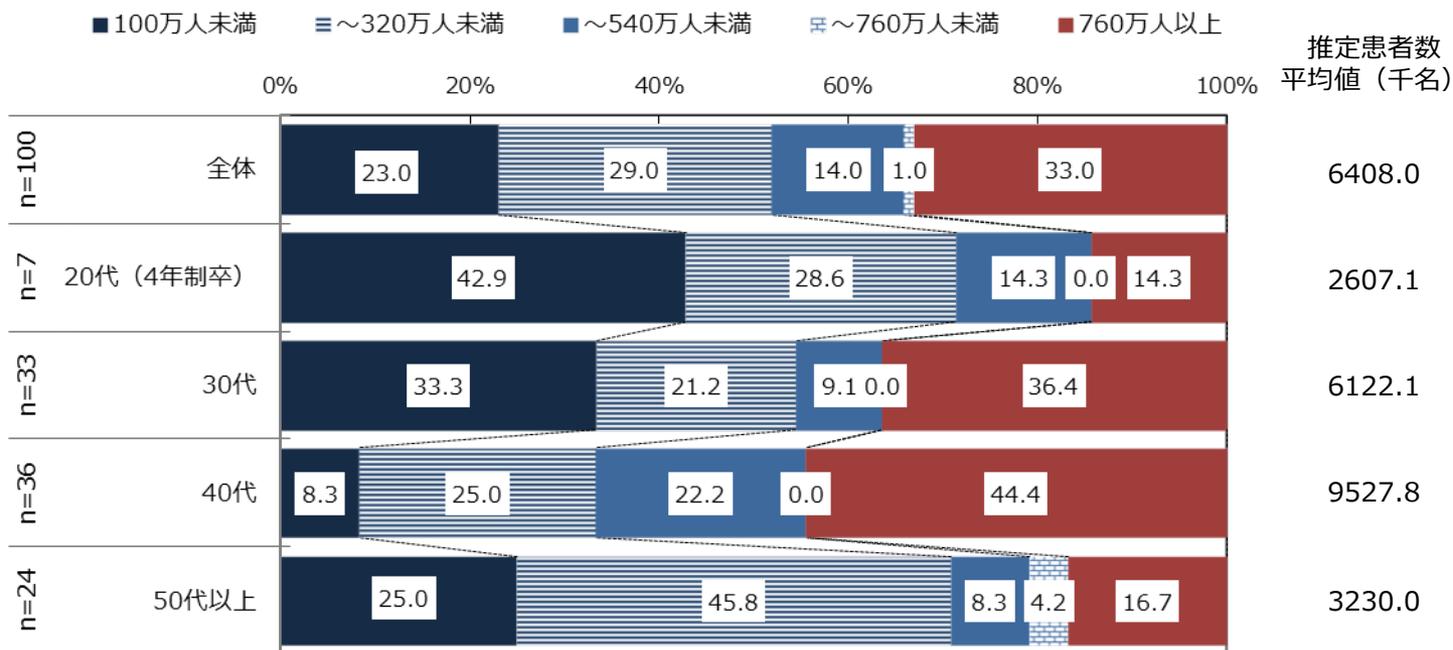
4. 透析患者数



透析推定患者数 30万人

— 高血圧症・糖尿病・骨粗鬆症等の日本における現在の患者数（潜在患者数含む） —
 Q. それぞれの患者数は何名だと思いますか。およそで結構ですので入力願います。

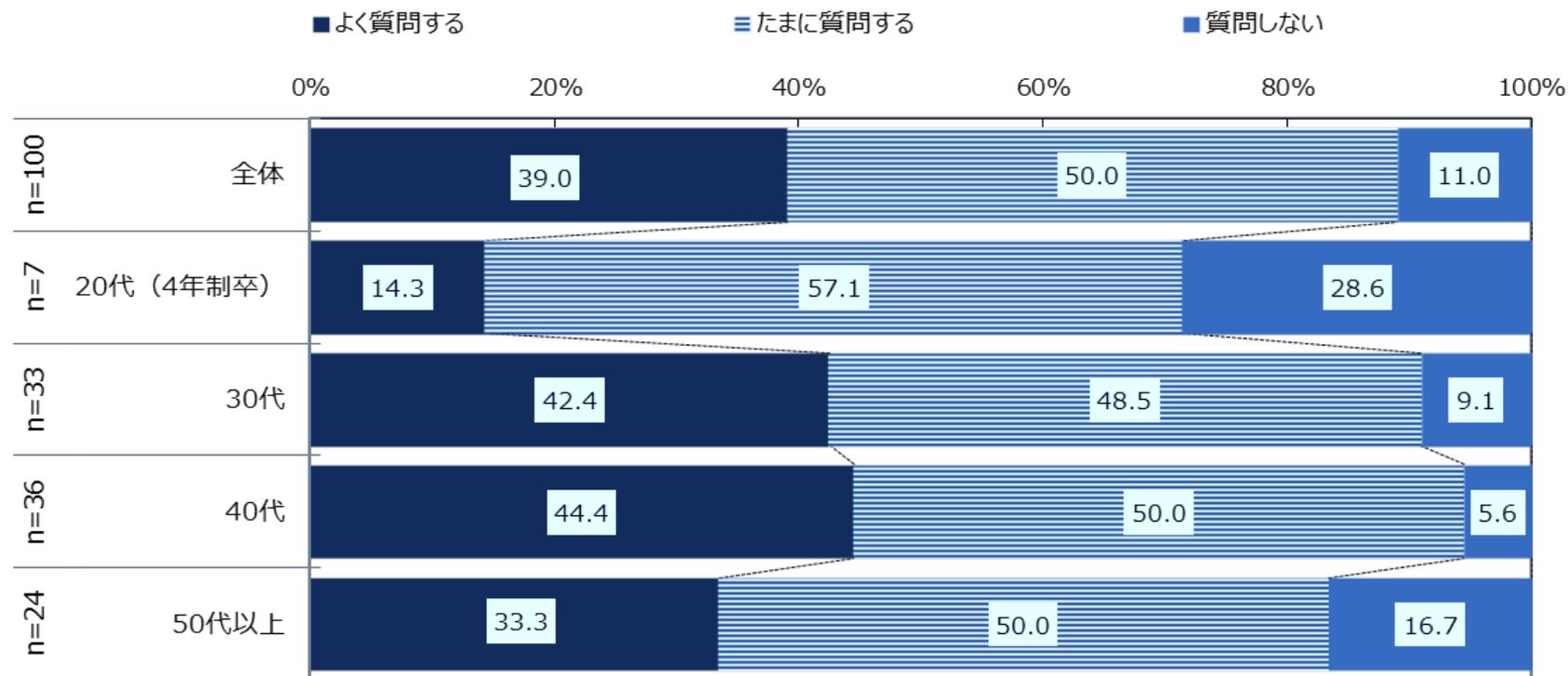
5. 骨粗鬆症患者数



骨粗鬆症推定患者数 1000~1200万人

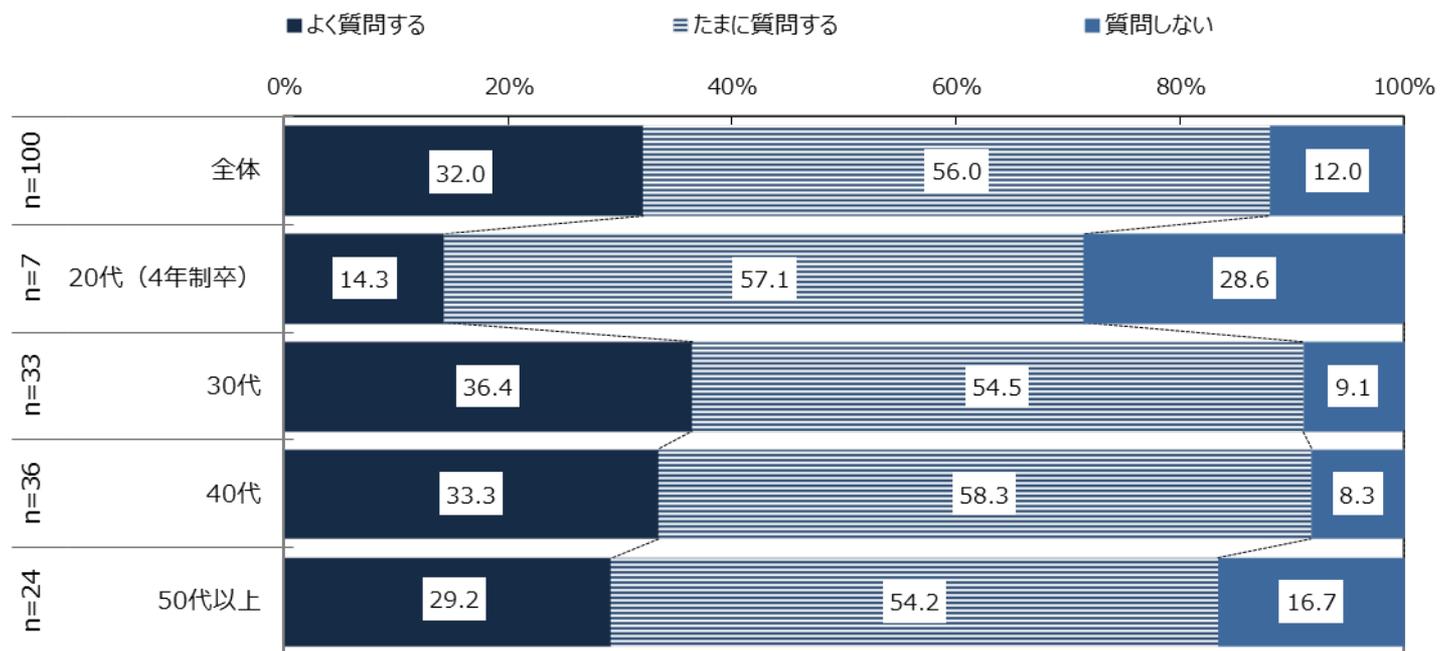
－ 高血圧の服薬指導・血圧測定についてお伺いします－

Q. 降圧薬服用中の患者さんに、外来血圧（外来で医師、看護師の測る血圧）の値を質問しますか。



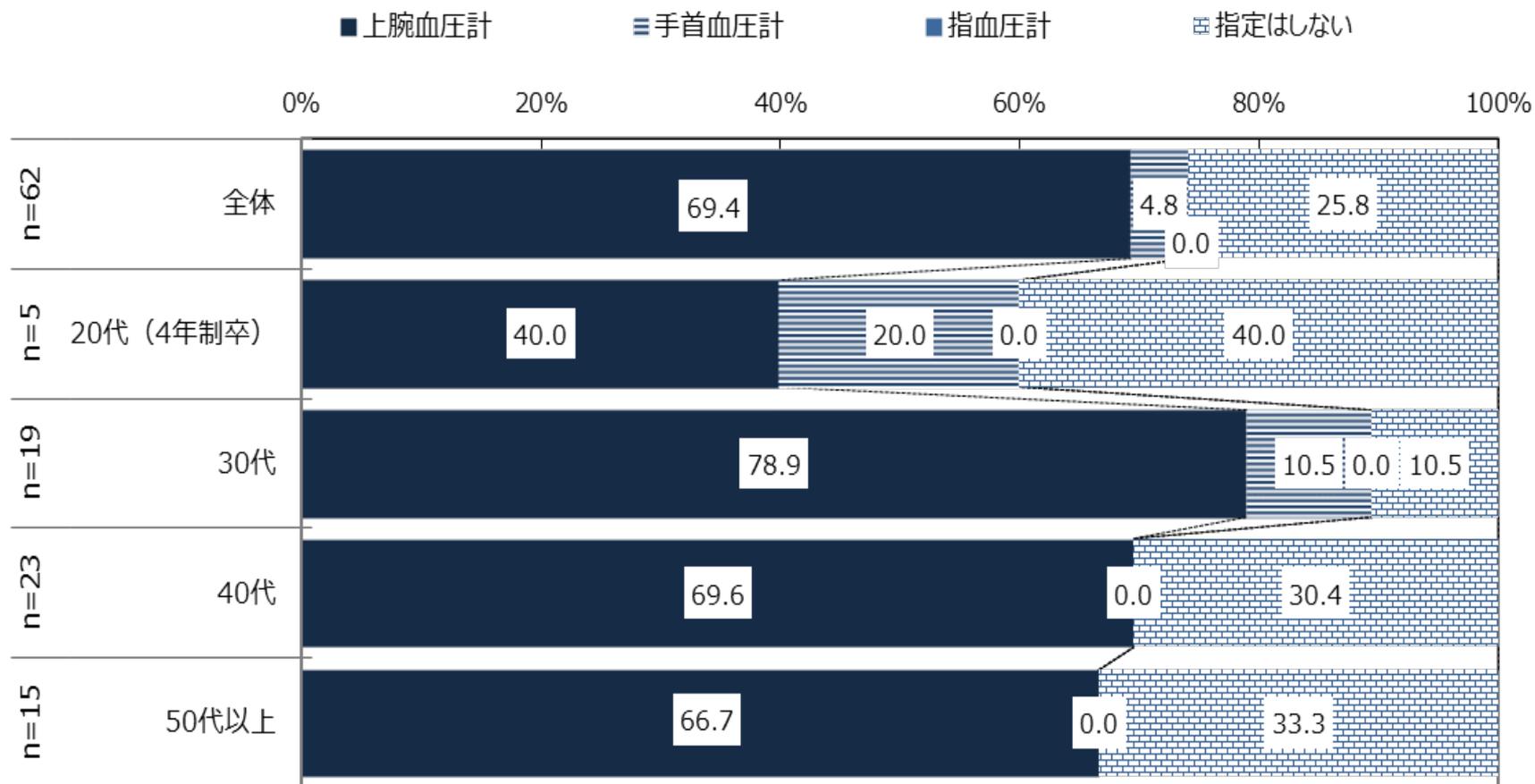
服薬指導時に血圧のモニタリングを行う＝9割

Q. 降圧薬服用中の患者さんに、家庭血圧（家庭で患者さんの測る血圧）の値を質問しますか。



家庭血圧の値をモニタリング=9割

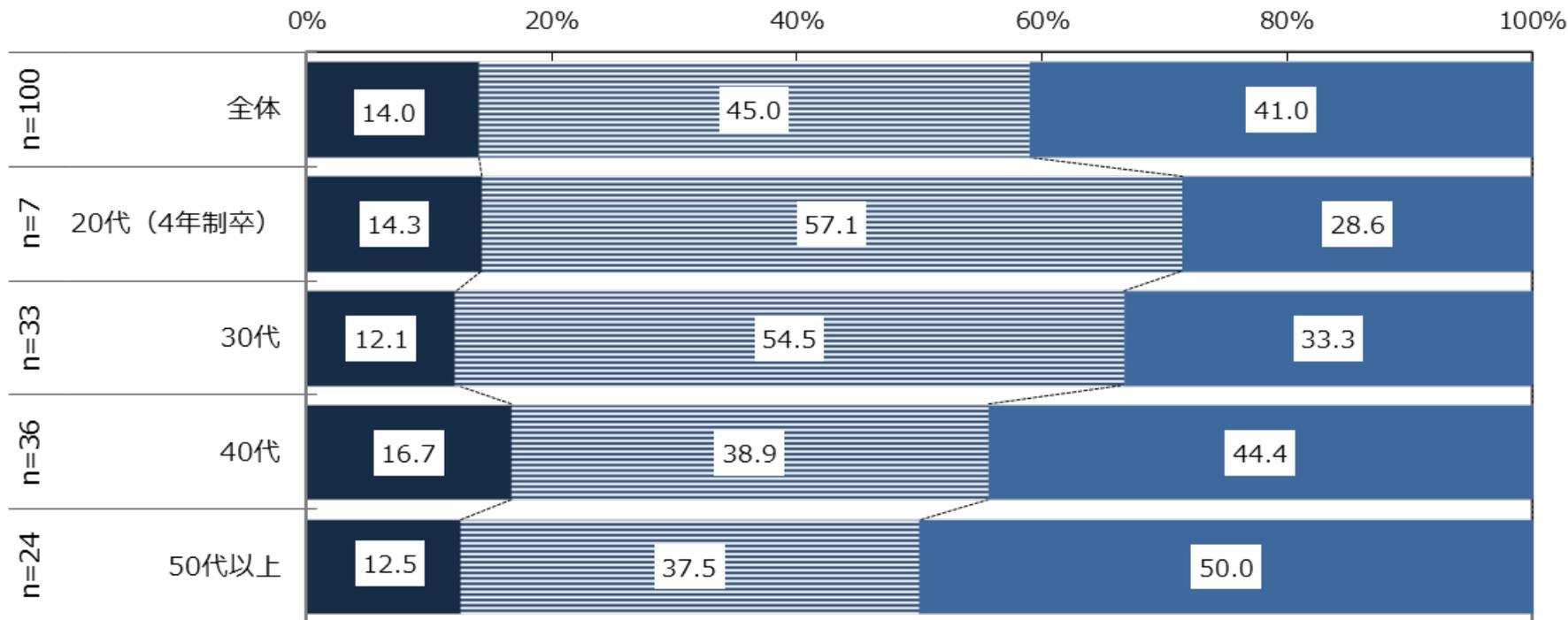
【患者さんに家庭血圧測定をすすめる場合】
Q. すすめる家庭血圧計は以下のどれですか。



家庭血圧計 = 上腕血圧計を進める ⇒ 7割

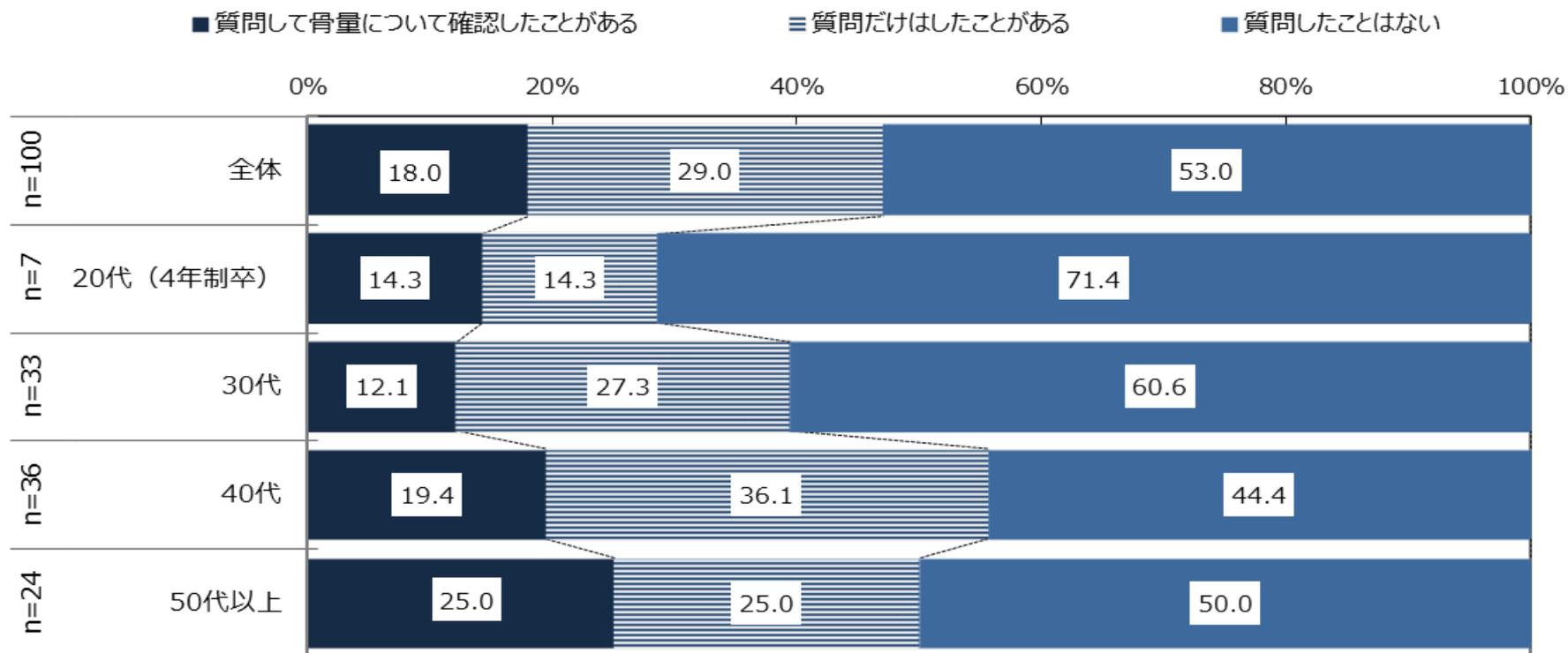
－骨粗鬆症の服薬指導等についてお伺いします－
Q. 骨粗鬆症の予防と治療ガイドラインをご存知ですか？

■ 知っていて、日常の服薬指導でも活用している ≡ 知っているが、日常の服薬指導で使うことはない ■ 知らない



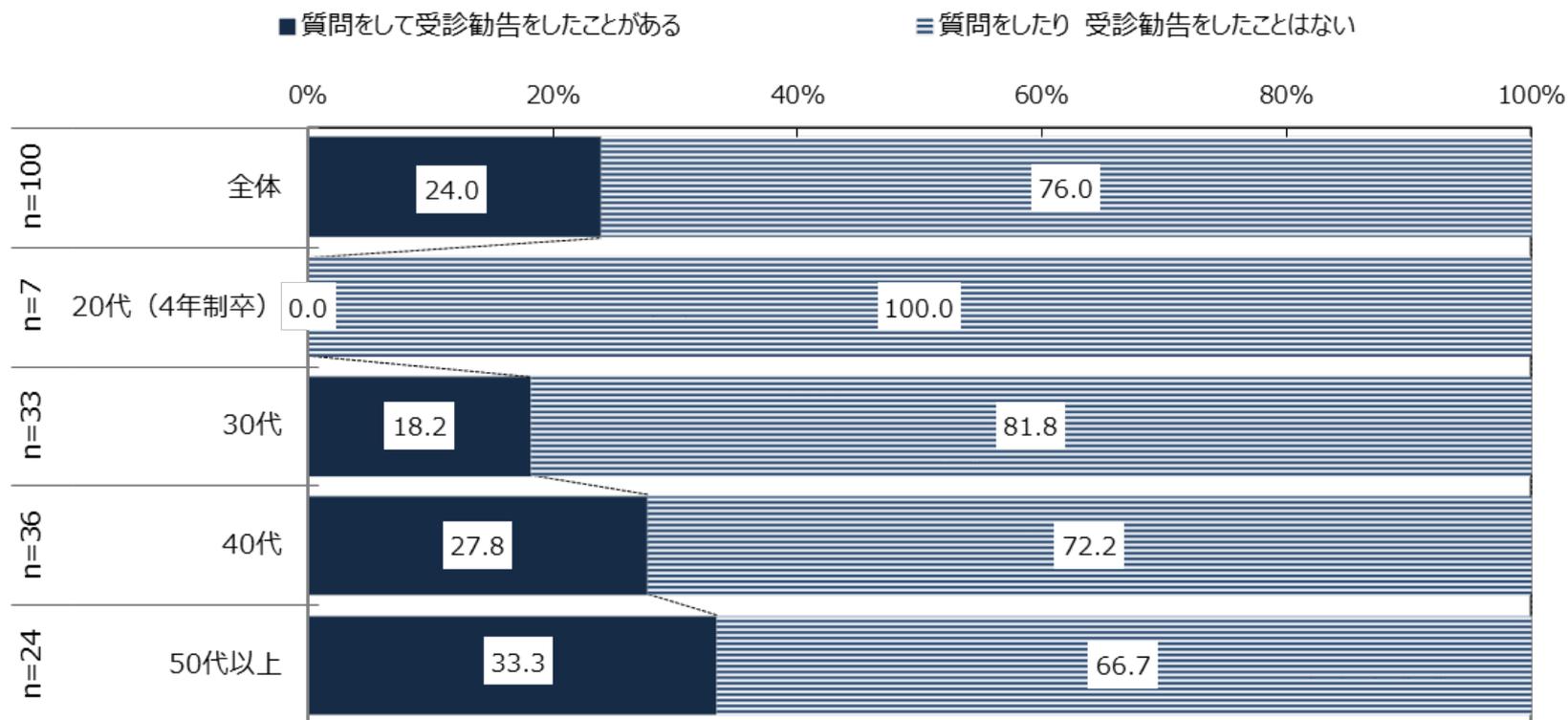
骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン認知率14%

Q. 骨粗鬆症治療薬服用中の患者さんに定期的な骨量測定をしているかという質問をしたことがありますか。



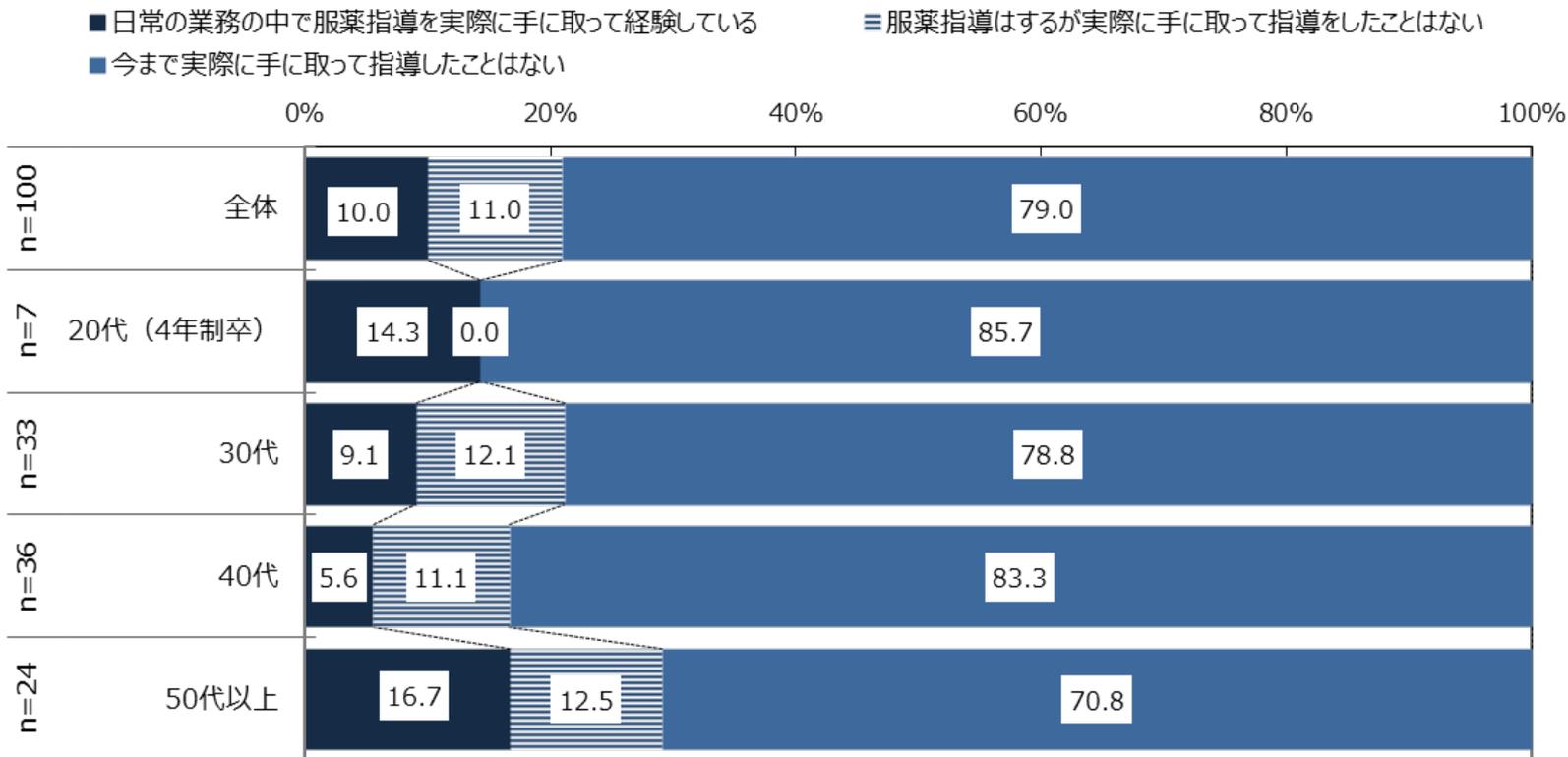
骨量についての確認 2割弱

Q. 腰痛などを訴える患者さん、身長が縮んだなどの話をされる患者さんに骨量測定・骨粗鬆症外来への受診を勧めたことがありますか？



骨粗鬆症リスクの患者さんへの受診勧告 24%

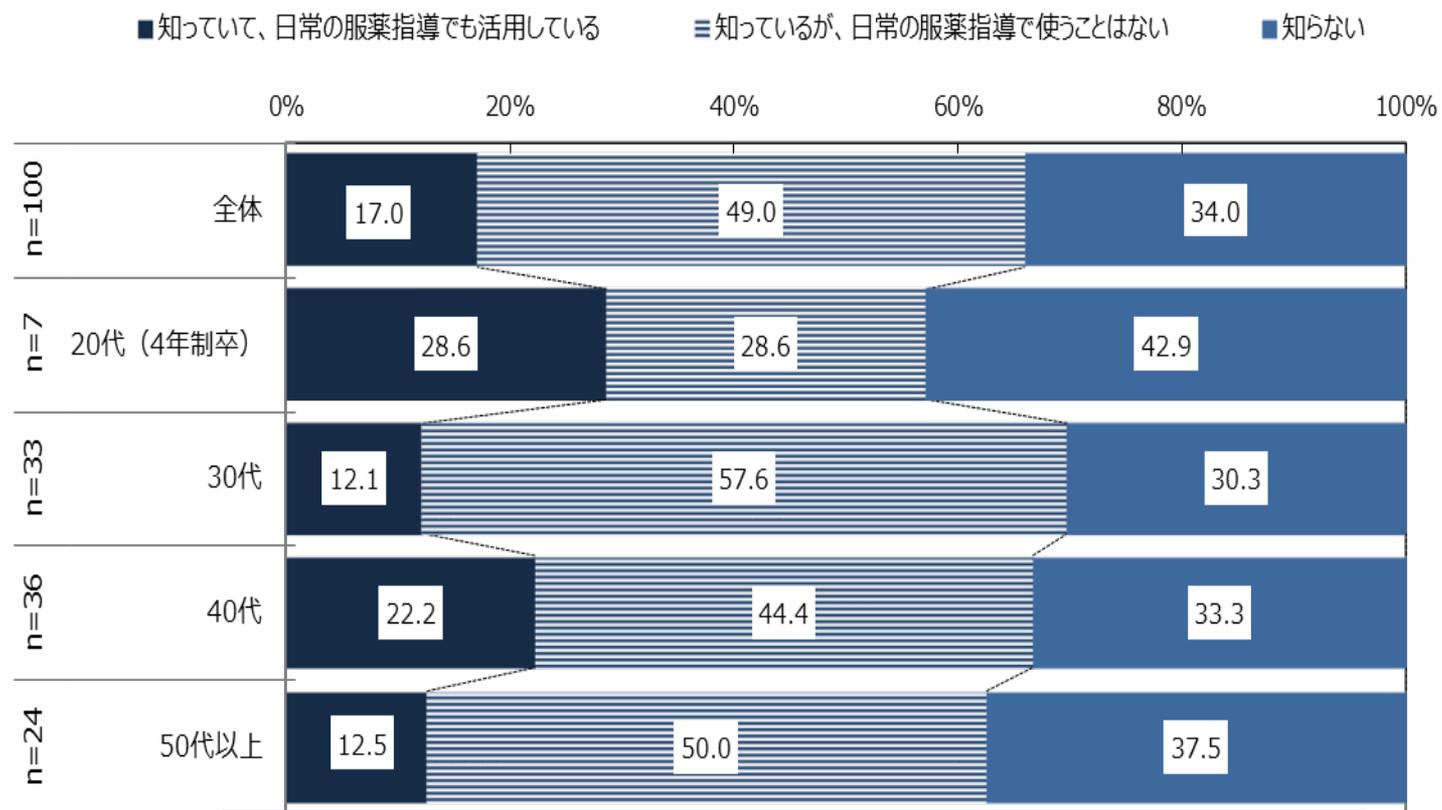
Q. テリパラチド の自己注射の服薬指導について該当するものを選択してください。



テリパラチド服薬指導経験なしが8割

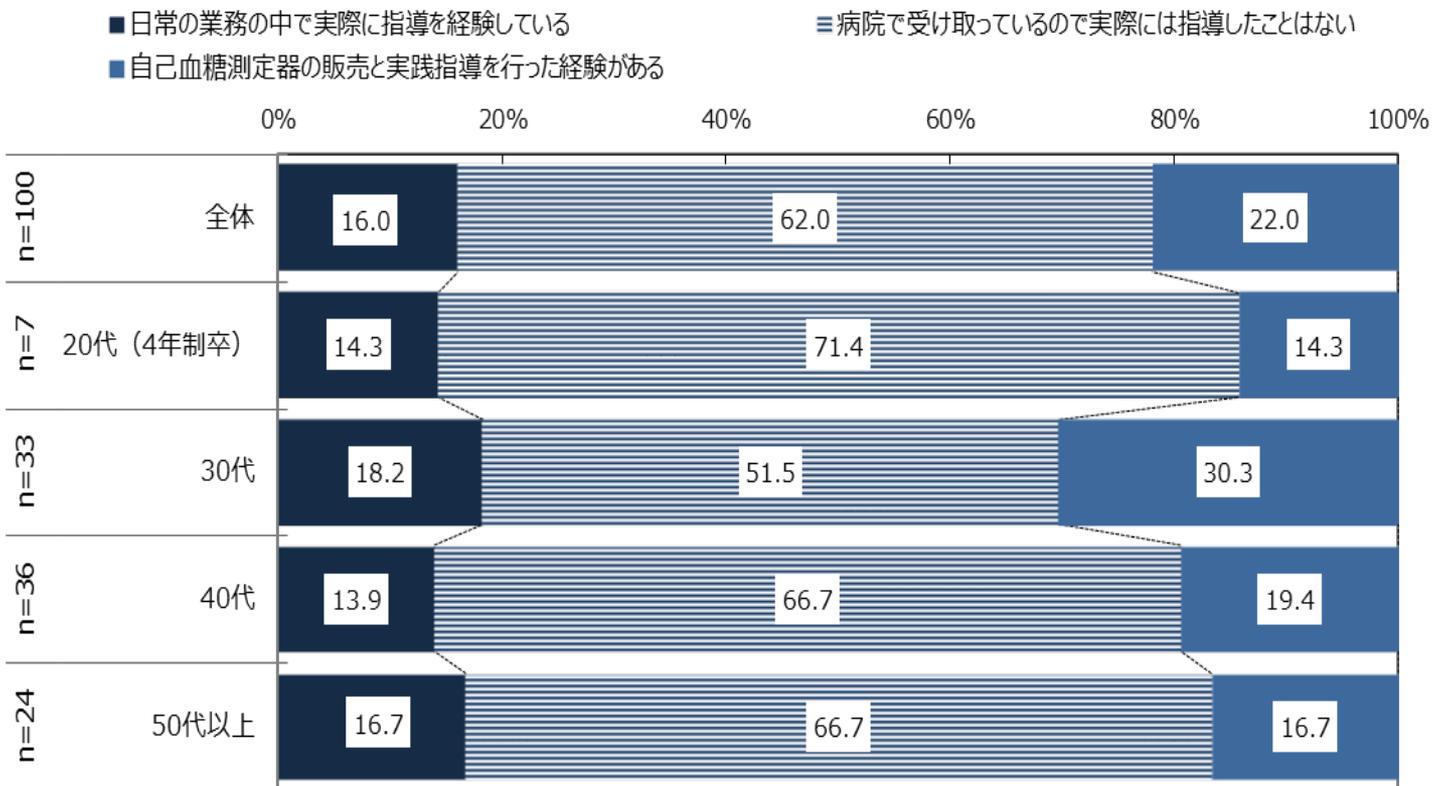
－糖尿病の服薬指導等についてお伺いします－

Q. 科学的根拠に基づく糖尿病の治療ガイドラインをご存知ですか？



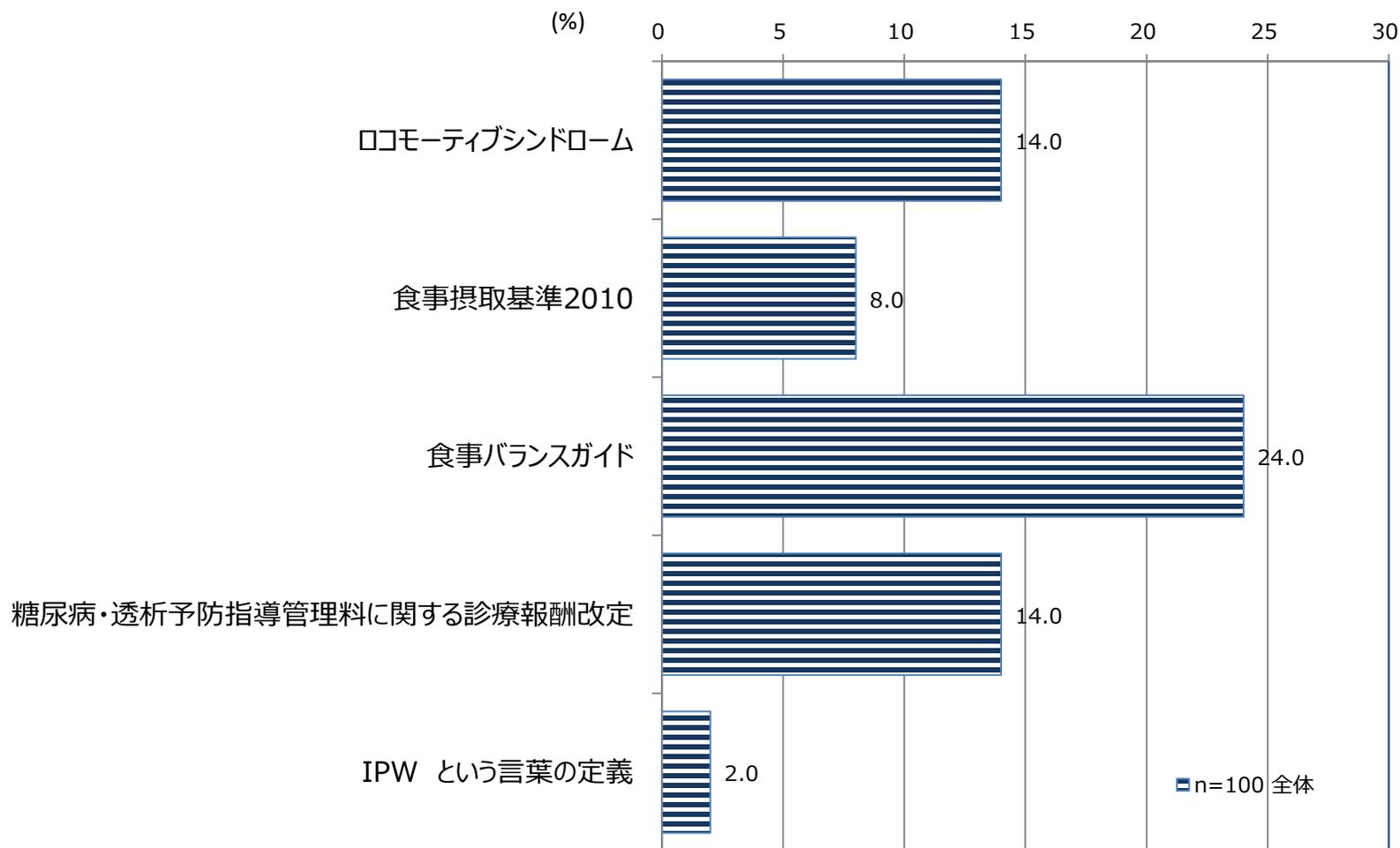
糖尿病治療ガイドライン活用 2割弱

Q . 自己血糖測定器について該当するものを選択してください。



SMBGの指導16%

Q. 下記の内容で知っているものを教えてください。〈複数回答可〉



【結果】

100名からの回答(20代30代が40%)を集計、分析した。

- 1) 医学学会会員になっているものは12%であった。
- 2) 取得したい専門認定が特にないと答えたものが71%で多く、取得したい専門認定では、糖尿病20%、高血圧症16%、骨粗鬆症10%であった。
- 3) 研修手法では、E-ラーニング40%、都道府県単位での研修34%、学会時の研修24%であった。

ガイドラインの認知、活用に関しては、

- 1) 日本高血圧学会の高血圧治療ガイドラインにおける家庭内血圧の高血圧症の基準の認知率が46%、
- 2) 骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン認知率55%、活用率14%、テリパチドを実際に手に取って服薬指導をしている率10%、
- 3) 科学的根拠に基づく糖尿病治療ガイドライン認知率66%、活用率17%であった。

生活習慣病の指導などに最近よく使われる基本用語の認知率は質問6項目ともに低く、24%(食事バランスガイド)から2%(多職種協同IPW)であった。

【結果】

今回の調査での薬剤師は

- ①日本の患者数の動向や潜在患者の数、掘り起し、受診勧告には弱い。
- ②服薬指導の時に血圧の値や血糖値は聞いてモニタリングはしている。
- ③実技面での家庭血圧の使い方は、指導しているものの高血圧の診断や治療に関わる、血圧の基準についての知識は正確ではない。(ガイドラインはあまり活用されていない)
- ④SMBGの使い方(高度医療機器取扱)は積極的にかかわっていない。
- ⑤テリパラチドやインスリンの自己注射の指導の経験は 有り無しに2分され、全員ができるということではない。
- ⑤主な生活習慣病のガイドラインの認知率や活用率は低い。
- ⑥専門をとりたいか否かや 医学系学会への参加率は低い。

専門制度がコメディカルに普及した場合、他の保健医療職が、学会に参加し、取得を目指す動きがある中で、薬剤師の参加率低いことは大きな課題である。

今後の真の意味でのIPW(他職種協同)に薬剤師が要の一つとして関わるためには、時代の動きに即した技能取得について薬剤師にこれらの専門職に対する参加を促すシステムが重要だと考えられる。

薬物療法について、専門の学会が提示するガイドラインについて、薬剤師が深く知識を得ることは大変重要なことである。それらの積み重ねにより、薬剤師が他の職からの信頼を獲得し、服薬指導の技術も確固たるものになる。

その結果、降圧目標に達する率も高まり 糖尿病の悪化・透析防止ができ、骨折も減り骨折の連鎖も断ち切れるのだらうと思われる。

【考察】

降圧目標の未達率の高さからの脱却、骨折人口の減少・骨折の連鎖からの脱却、糖尿病患者の悪化防止・透析予防に関わる薬物療法において薬剤師がその果たすべき責務は重く解決すべき課題は多い。

その一方で、基本的な疾病管理に関わる専門教育に関しては今回の実態調査からも決して充実しているとは言えない。

外来調剤を担う薬剤師への研修制度、専門制度の充実が望まれる。